

【救医療圏】具体的対応方針等整理票

| 整理番号 | 区域 | 医療機関名 | 許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R5.7.1 ※1 | 病床機能報告による 機能別病床数 ※1 | | 施設基準の 状況 R5.7.1 ※2 | 認定・届け出等※3 | | | | | 「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋(プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4 | 対応方針の実施状況 (令和6年6月末時点) ※5 | | | | | | | |
|------|----|--------|--|---|---------------------------------------|-----------------------------|-----------|----|----------------|----------------|----------------|---|---|---|------------------|---|---|--------|--------|----------------------|
| | | | | 療養 | 慢性 | | 急性 | 慢性 | 地域 医療 支援 | 救急 医療 施設 | 在宅 療養 支援 | | 在宅 療養 後方 支援 | 終 末期 医療 | 病院の特徴・役割 | 今後の方針 | 機能別病床 数(2025) | 実施状況 | | 備考 (実施予定時期な ど) |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | R5.7.1 | R7.7.1 | |
| 1 | 萩 | 萩慈生病院 | 療養 144 | 慢性 144 | 急性 144 | | | | | | | ・慢性期医療を主体として、回復期から維持期の医療と看護、介護、医学リハビリテーションを行っている。また在宅支援のための多機能サービスで切れ目のないサービスを提供している。 | ・急性期医療機関の後方病院として、地域医療の中で慢性期医療施設としての役割を果たしていく。 ・地域包括ケアの中での自院の役割を果たしていく。 ・難病疾患患者の療養支援。 | 慢性 144 | 実施済 | | | | | |
| 2 | 萩 | 萩むらた病院 | 一般療養 78 18 60 | 急性慢性 78 18 60 | 急性慢性 78 18 60 | | | | | | ○ | ・急性期機能を担う。 | ・病床数が少ないが急性期から慢性期まで責任を持った医療ができるような病院作りを目指し地域医療の役割を果たしていく。 ・当院では人工関節専門医による治療も特化し山陰地区でも山陽地区と同等の技術が受けられるように対応していく。 ・救急医療に対してもできる限りの対応をしていく。 | 急性 78 慢性 60 | 実施済 | | | | | |
| 3 | 萩 | 全真会病院 | 療養 54 | 慢性 54 | 慢性 54 | | | | | | | ・慢性期機能を担う。 | ・地域における慢性期(見取り・ターミナルケア)を担う。 | 慢性 54 | 実施済 | | | | | |
| 4 | 萩 | 萩市民病院 | 一般 100 | 急性 100 | 急性 100 | | | | | | ○ | ・5疾病では、「心筋梗塞等の心血管疾患」の急性期の機能、「がん(子宮がんを除く)」の標準的な診療機能、「糖尿病」は慢性期合併症の治療として腎不全の治療を行う機能を有する医療機関としての役割を果たしている。 ・5事業における「救急医療」は、病院群輪番制病院として、「へき地医療」はへき地医療拠点病院としてへき地の診療を支援し、「小児医療」は地域に必要な小児医療を提供するなど、それぞれの役割を果たしている。 | ・「急性心筋梗塞」、「小児医療」、「救急医療」、「へき地医療」など現在の役割を堅持するとともに、小児科と産婦人科が一体的に提供できる体制を目指す。産婦人科のある民間病院、診療所と統合を含めた検討を行うなど、地域完結型の中核病院を目指す。 ・引き続き急性期を担う中で、高度急性期や回復期の機能も必要と思われるが100床規模では困難である。人口減少などによる必要病床数の減少に備え、地域の医療提供体制を維持するうえで、同じ急性期医療を担っている民間病院と調整のうえ病床機能を整える。 | 検討中 | 未実施 | 都志見病院との統合による中核病院形成を目指して、基本合意の締結に向けて協議中であり、基本合意後に見直しを行う。 | | | | |
| 5 | 萩 | 都志見病院 | 一般療養 234 175 59 | 急性回復慢性休棟 234 60 57 59 58 | 急性回復慢性 234 118 57 59 | 地ケア 57 | | | | | ○ | ○ | 急性期・回復期・慢性期の各機能を担う。 急性期:厚労省指定の地域がん診療病院としてがん診療に注力している。災害拠点病院、DMAT指定医療機関として災害医療に協力している。救急告知病院として圏域の2次救急輪番に参加するとともにコロナ対応病床を確保し救急医療・感染症対策に注力している。 回復期:圏域唯一の地ケア病床を有しポストアキュートから在宅療養後方支援に対応している。 慢性期:慢性腎不全患者に対する人工透析を中心に慢性期医療を提供している。 | 急性期機能:圏域の医療機関との連携を強化し、がん診療・救急医療・災害医療・感染症対策の拡充を行う。 回復期機能:圏域にない回復リハビリの導入を検討するとともに地ケアの体制の拡充を目指す。 慢性期機能:増加が予想される人工透析を核とした慢性期医療の拡充を目指す。 上記機能を整備した地域完結型の中核病院形成を目指す方針である。 | 検討中 | 未実施 | 萩市民病院との統合による中核病院形成を目指して、基本合意の締結に向けて協議中であり、基本合意後に見直しを行う。 | | | |
| 6 | 萩 | 玉木病院 | 一般療養 151 40 111 | 急性慢性 151 40 111 | 急性慢性 151 40 111 | | | | | | ○ | ○ | ・急性期入院から在宅療養に到るまでの幅広い疾病に対して総合的に対応できる医療体制を整えており、プライマリケアの提供に務めている。 ・一般病床に関しては、救急告示医療機関(救急指定病院)を担当している。 ・療養病床に関しては、医療の必要度が高く在宅復帰が困難な患者の受け皿として機能している。 ・県内では山口大学を除き唯一、高気圧医学専門医と高気圧酸素治療専門技師が常勤しており、圏域内や県外を含む圏域外からも高気圧酸素治療を引き受けている。 ・人工透析のベッド数は8台で、外来及び入院に対応しており、在宅復帰が困難で維持透析が必要な患者も療養病床にて受け持っている。 | ・基本理念の1つである「急性期と慢性期との全人的医療」を基本的な当院の姿勢として継続し、他の医療機関等と連携の強化に一層取り組んでいく。 ・ポストアキュート機能の充実強化。萩圏域の地域医療を守る為、他の急性期病院の後方支援としての役割をさらに果たしていく。 ・サブアキュート機能の充実強化。在宅療養支援病院として、在宅担当の診療所との密接な協力の下で、救急医療と在宅医療の橋渡しの役割を強め、院内併設の訪問看護ステーションと共に萩圏域の在宅医療の充実を追求していく。 ・今後も引き続き、医療の必要度の高い療養患者の受け皿として機能果たしていく。 | 急性 151 慢性 111 | 実施済 | | | | |
| 病院小計 | | | 一般療養 761 333 428 | 高度急性回復慢性休棟 761 0 218 57 428 | 高度急性回復慢性 761 0 276 57 428 | 回リハ地ケア 57 0 57 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | | | 高度急性回復慢性 761 0 276 57 428 | 実施済 4 未実施 2 | 実施率 66.7% | | | | |

